

【課題遂行時の状況】

- ・ ATOK の文字パレットで入力する際の文字種類を選ぶことができる。また、ローマ字入力とカナ入力の両方が活用できる。
- ・ 課題遂行時に、本来とは異なる読み方によって入力することが時折観察された。例えば、「水まき」を本来の「みずまき」という読み方によって入力せず、いったん「すい」と入力し「水」に変換した後、それに続けて「まき」と入力することなどである。

【用意した課題による状況】

- ・ 例 1 ～例 3 いずれの場合も、「文書入力課題レベル 1」で与えられた課題よりも、遂行時間が短縮される傾向が見られた。
- ・ 課題遂行は正確そのものであった。不正解の結果を示すことは観察されなかったため、生徒が受けるフィードバックのグラフィックには、図 2－1 5 に示すような正解画面のみが表示された。その画面を見た生徒からは「マル」や「ワー、ジョウズジョウズ」などの言葉の発声や、拍手をしたりすることが観察された。これらの行動は生徒が自身に対して行う自己評価であると考えられる。

【今後の計画】

- ・ 郵便物のラベル作成業務などを意図して、今後は都道府県名や政令指定都市名などの入力課題を検討している。

(f) OAWork 文書入力課題の利用可能性について

この事例を通して、OAWork は汎用性が高いワークサンプルであると考えている。文書入力課題では容易に課題を変更できるため、この事例のように「ひらがな」のみの対応も可能であり、対象者の範囲を拡大できる可能性を有していると思われる。別の事例で示すように、知的障害の生徒による実践例も数多く経験している。

またこの課題は、上下にテキストと入力窓が表示され、1 対 1 対応ができる点が優れている。さらに、トレーニングモードではこの事例のように、即座に「○ ×」による結果のフィードバックがあるため、自学自習にも適している。



図 2－1 6 実際の支援場面（左側は支援者）

③毎日の自習課題としてのホームワーク版の活用

MWS ホームワーク版（以下、「ホームワーク版」という。）の一部を、軽度知的障害、LD 等の生徒の家庭学習の課題として活用している。実際には寄宿舎生の自習時間での取り組みとして、学級担任が毎日課題を持ち帰らせている。表 2－5 に 1－C、1－D、1－E 計 3 名の実施状況を示した。事務課題の宛名書き課題に高等部 1 年（当時）3 名の生徒が、毎日コンスタントに取り組み、早々にレベル 1 ～ 5 までのすべての課題を終了した。レベル 5 を残すのみとなった段階で、すでに次の課題を心待ちにしており、家計簿作成課題と健康管理グラフ作成課題を提示したところ、「次は家計簿に取り組んでみたい」と意欲的であった。その後、家計簿作成課題に 3 名とも移行し、2 ヶ月ぐらいでレベル 5 に達した者もいる。図 2－17 に対象生徒の実施した作業の実施例を示した。

教科の宿題が大嫌いで時々忘れてくる者もいたが、ホームワーク版の課題に関しては「他の宿題より良い」と言いながら毎回欠かさず続いていた。

彼らはこのツールのことを良く話題にしており、「宛名書き課題に挑戦したおかげで、国語の授業で年賀状を書く課題で先生にほめられて嬉しかった」、「家計簿作成は、アルバイトで貯めたお金を管理するのに役立つ」等、前向きな意見が多く聞かれた。支援者との間に、ホームワーク版という共通の話題があるため、就労に関する話題になることも多く、早期から就労に向けた意識を高める効果があると感じている。

表 2－5 ホームワーク版事務課題を学級担任が課題として生徒に実施している事例

対象者	1-C 知的障害 男性 高等部1年(当時)	1-D ADHD傾向 男性 高等部1年(当時)	1-E 知的障害 男性 高等部1年(当時)
状況	・ADLすべて自立 ・ひらがな、カタカナ、小4程度の漢字の読み書きは可 ・小4程度の四則計算は可能であるが、生活への応用が難しい。 ・目的がはっきりしていれば一定時間作業に従事できる。 ・報告、質問は身につくつつあるが、挨拶、返事は課題。 ・困難場面では他者に依存的 ・職場実習では、積極性や困難時のコミュニケーションが課題として指摘される。	・ADLすべて自立 ・漢字の読みは小5、書きは小4程度は可。 ・自分の経験や考えを作文に詳しく綴ることが得意。話すことは苦手な分野である。 ・簡単な四則計算ができる。 ・自主学習の習慣はついている。 ・誰とでも話は出来るが、対人関係がなかなか広がりにくい。 ・職場実習ではスタッフへの挨拶、報告等は出来ていた。 ・交通機関の自立的利用は可能。	・ADLすべて自立 ・小4程度の漢字の読み書きは可。 ・相手や場に応じた話し方が課題。 ・四則計算は、ほぼ定着している。 ・作業等では、指示理解・作業遂行等に関しては問題なし。長時間の集中が課題。 ・職場実習では、すでに雇用の域と評価を得ている。 ・交通機関の自立的利用は可能。
支援目標	・時間の有効活用 ・継続して取り組む	・時間の有効活用 ・漢字の練習 ・情緒の安定	・時間の有効利用 ・書字練習
支援経過	・毎日の寄宿舎生活での課題として、宛名書き課題、家計簿作成課題を実施 ・本人、保護者の希望により教科(国・数)の課題も実施 ・ホームワーク版の実施前に、将来の就労自立を目的とした課題であることを説明した。3名共、そのことを十分意識した取り組みとなった		
支援結果	・毎日の反省欄では、「めんどうである」と書きながらも、忘れずに課題遂行している。 ・宛名書き課題については、指定された枠ぎりぎりに記入していたが、徐々に全体のバランスが良くなった。 ・家計簿作成課題については、宛名書き課題に比較して意欲的。	・休日も含め、必ず毎日取り組んでいる。 ・バランスを意識しながら取り組み、徐々に上達した。 ・また大変意欲的であり、就労自立に向け真面目に取り組んでいる。	・宿題は時々忘れることがあるが、ホームワーク版については、毎日忘れずに取り組んでいる。 ・字を書くことが苦手で宛名書き課題は、やや消極的だったが、家計簿作成課題に対しては、大変意欲的で「絶対に続ける」と言っている。

3-2 (5) 練習用紙がき

2730031

千葉県船橋市
佐々木 健斗様
ハイツ山下

愛媛県松山市鷹子町九八九六
木村 優子

79009216

2730031

宛名書き [自己評価と感想]

作成日 19年12月13日 課題No. 2-1

◆今日の作業を振り返って。
 あてはまるところにチェックを入れましょう。

☐ 正しい順番に記入できましたか？
☐ 記入する順番は適切でしたか？
☐ 適切なデータを参照して作業ができましたか？
☐ 文字は正しく書き写しましたか？
☐ すべて正確だった！

◆よくできたとと思うこと、うれしかったことなど。
 今日の感想を書きとめておきましょう。

かしこくお金のバランスが
 つかえりとおもしろさ
 かんじがたつた
 おもしろさ

Level Book

家計簿 (家計簿作成課題)

日付 11月29日(水)

名前

No.	月	日	収入			支出			残高	
			種別	内訳	金額	種別	内訳	金額		
1	11	1	Family Photo			食費	食費	ファミリ(食費)	130	4980
2	11	1	Family Photo			食費	食費	ファミ	95	4915
3	11	1	Family Photo			食費	食費	ファミ	150	4925
4	11	1	Family Photo			食費	食費	ファミ	100	4925
5	11	1	Family Photo			食費	食費	ファミ	500	4925
6	11	1	Family Photo			食費	食費	ファミ	450	4925

今日の
収入合計 0 - (支出合計) 5925 = (残高) 5925

今日の
収入合計 5000 - (支出合計) 5925 = (残高) 4975

自己評価

正しい家計簿用紙を使いましたか？
 正しい順番に記入できましたか？
 見ていたデータは正しかったですか？
 計算は正しくできましたか？
 金額正確でした！

感想

おもしろい家計簿
 かんじがたつた
 おもしろさ

コメント

数が増えたり減り
 かんじがたつた
 おもしろさ

図 2-1 7 ホームワーク版 ～ 宛名書き課題 (左) / 家計簿作成課題 (右) 実施例

この事例では、ホームワーク版を実施する前に、このツール群が将来の就労自立を目的とした課題であることを、学級担任が生徒に対し充分説明した後に支援を開始している。

3名の生徒はいずれも就労を目指しており、生徒自身が職業リハビリテーションのツールであることを理解していることで、就労に向けたモチベーションも高まり、学校生活や寄宿舎生活にも生かしているという意識付けになっている。

このように、ホームワーク版で段階的にステップアップを図りながら、(5) - (ア) で示した M-メモリーノート の活用と、MWS 訓練版を組み合わせた有機的な活用により、さらに将来の就労を意識させた取り組みができないか検討している。

④その他の授業場面における MWS の活用

授業場面等における、その他の活用について簡単に紹介する。

(a) 重さ計測課題を数学の授業の中で活用した事例

中度の知的障害を伴う自閉症の生徒「1 - F」に対し実施した。指定された「△～□ g」の範囲内に 3 種のボルトを組み合わせ調整する課題である。補完手段として「数直線」を活用した。はじめは支援者と共に取り組んでいたが、最終的には数直線を自発的に活用し、課題解決が出来るようになった。視覚的な補完手段を講じるにより、困難と思われた課題を克服した事例であると考えている。

(b) コミュニケーションをとることが困難な自閉症の生徒に実施した事例

コミュニケーションをとることが困難な自閉症の生徒「1－G」に対し、プラグタップ組立課題を高等部 2 年から 3 年にわたり実施した。コミュニケーション（会話）は困難であり、指示書等は理解できないが、作業を構造化（左から右に並べ順番にとることを理解した時点で）することで、安定した作業ができるようになった。レベル 4、部品数 13 まで増やしてもスムーズにできている。

困難時には該当する部品を差し出すことで意思表示をするようになった。うまくいかないと奇声が出ることがある一方、「がんばれ」「がんばって」と言う場面も出てきている。

関係各機関を交えてのケース会議で、この課題を実際に実演してもらい、出席者に作業能力等を理解してもらった。このことは非常に説得力があったようで、実践した支援者からは、「トータルパッケージが連携に関する共通の言語になると思う」と感想が寄せられている。

(c) 教室のノートパソコンで自由に OAWork を楽しんでいる事例

高等部の各教室にはノートパソコンが一台ずつ配布されている。いくつかの学級から希望があり OAWork をインストールした。学級の時間や休み時間等に生徒自身が自由に利用している。校内では「OAWork」という言葉が普通に生徒間で交わされている。

(ウ) 校内実習における MWS の活用

A 養護学校では 6 月と 11 月に校内実習を 2 週間実施している。1 グループ 7 ～ 8 名程度で構成され、14 種類程度の様々な作業班が用意されている。（表 2－6）

表 2－6 校内実習 作業班（H18 年後期）

木工	窯業	パソコン※	ウエス加工
園芸	リングブル整理	事務※	清掃
紙工	グランド整備	ナプキン折り※	※印は、トータルパッケージより導入
縫工	ボールペン組立分解	箱折り	

この作業課題の一部にトータルパッケージを導入し、いままでに 4 期間実施した。MWS（基本 13 課題）、及びホームワーク版から課題を選定した。（表 2－7）

これらの課題は、複数の生徒で同時進行が可能であること、作業結果を自己フィードバックしやすいこと、セルフマネジメントを意識できること等を検討し選定した。4 期間で個々の課題に取り組んだ生徒数は表 2－7 に示すとおりである。

回を重ねる毎に、取り組む課題の幅が広がってきており、最近の実践では 9 課題に取り組んだ。これは適応可能な課題としての認識が、他の実践等を通じて浸透してきたためである。また、3 期目からは課題を複数組み合わせることで、生徒がより取り組みやすくなるよう工夫を施した。数値チェック課

題と宛名書き課題を「事務班」、ナプキン折りと洗濯物たたみ課題を「ナプキン班」、OA 課題 5 課題は「パソコン班」として組み合わせた。

表 2－7 校内実習の MWS 活用状況（実施人数）

校内実習		H17前期					H17後期					H18前期					H18後期					のべ人数				
		身体	知的	自閉	LD	脳梗	身体	知的	自閉	LD	脳梗	身体	知的	自閉	LD	脳梗	身体	知的	自閉	LD	脳梗	身体	知的	自閉	LD	脳梗
基本 13 課題	事務 課題	数値チェック					4	2	1			5	9	4	1	1	6	10	2	1		11	23	8	3	1
		物品請求書作成																								
		作業日報集計																								
		ラベル作成																								
	O A 課題	数値入力	14	4	1	1	8	3	2	1		3	16	7	2	1	7	2	2	1		3	45	16	7	4
		文書入力	14	4	1	1	8	3	2	1		1	9	2	2	1			2			1	31	9	7	3
		コピー&ペースト					4		2				4	2	2	1		2	1	2	1		10	3	6	2
		ファイル整理								2										1					3	
	実 務 課 題	検索修正													1			3	2	2			3	2	3	
		ナプキン折り	4	2	1		1	4	1	1		5	14	6	2	1	6	10	2	1		12	32	11	5	1
		ピッキング																								
		重さ計測																								
ホ ー ム ワ ー ク 版	事務 課題	プラグタップ																								
	実 務 課 題	宛名書き	1	11	5	2	1					5	9	4	1	1	6	10	2	1		12	30	11	4	2
		健康管理グラフ																								
		家計簿作成																								
	実 務 課 題	食器洗い																								
		洗濯物たたみ										5	14	6	2	1	6	10	2	1		11	24	8	3	1
		包丁の使い方																								

(注) 身体 = 身体障害 知的 = 知的障害 自閉 = 知的障害を伴う自閉症 LD = LD・ADHD・高機能自閉症等
脳梗 = 脳梗塞の後遺症等

①校内実習における OA 課題の取り組み

実施にあたり、情報教室に設置されているデスクトップ型の Windows[®] パソコン 7 台に OAWork (Ver.2) をインストールした。生徒の実態に応じて様々に設定するため、プロフェッショナルモードにあらかじめ変更している。生徒向けに作成した資料を表 2－8 に示した。

また、表 2－8－①に示した生徒向けに作成した操作マニュアルの一部を図 2－18 に示す。

表 2－8 生徒向けに作成した資料

① 操作マニュアル	訓練者登録から検索修正課題までを図表入りで解説
② 実習日誌	操作結果(作業時間・自己採点)等を記入する
③ 自己分析シート	自分自身で前回の作業結果を整理し、振り返る
④ 目標シート	③の分析結果から、今回の目標(レベル・時間等)を考える
⑤ 漢字の読み仮名シート	文書入力課題で、読み仮名を各自で調べるために用いる
⑥ ファイル整理ヒントシート	ファイル整理課題で用いられている部署と仕事内容の関係性を記した

1 期目の実施では、生徒・支援者とも不慣れなこともあり、課題遂行よりも操作上のトラブル等で時間を費やすことが多かった。2 期目以降は様々な機会に体験することも増えたためか、生徒自身も慣れ、自分自身でスムーズに操作をする者が多く見られた。

目標シート		ファイル整理 ヒントシート		
今回の校内実習では、どこまでやりたいですか？		部署	仕事内容	仕事内容の例
●数値入力課題 レベル _____ まで チャレンジしたい！ 時間は？ _____ (秒以内) _____ ミスは？ _____		総務部	お給料に関すること	・給与 ・賞与 ・退職金
			社員に関すること	・社員 ・採用 ・面接
			備品に関すること	・備品 ・事務 ・物品
			行事に関すること	・忘年会 ・社員旅行 ・創立〇〇年記念式典
●文書入力課題 レベル _____ まで チャレンジしたい！ 1ブロックで行う 試行数は？ _____ 続けて行う ブロック数は？ _____		製造部	製品の良し悪しに関すること	・不良品 ・品質 ・検査
			製品が順調に作られているかに関すること	・工程 ・部品 ・製造 ・生産
●コピー&ペースト課題 レベル _____ まで チャレンジしたい！ 時間は？ _____ (秒以内) _____		営業部	製品を売るにはどうしたらいいかに関すること	・営業 ・販売 ・商品
●検索修正課題 レベル _____ まで チャレンジしたい！				

図 2－1 8 生徒向けマニュアル例 【左：目標設定シート 右：ファイル整理ヒントシート】

担当した教員からは、次のような意見が寄せられている（第 1 期終了時）。

- ① 生徒自身で作業効率の向上が確認できる点が良い。
- ② 個々人のスキルに差があり、集団で取り組むにはやや難があった。しかし慣れていけば少人数の支援者でも対応できると思われる。
- ③ 生徒が大変興味を持って取り組む課題であるため、今後も実施してほしい。
- ④ 文書入力課題は、漢字力に幅があるため大きな差が生じた。生徒には数値入力課題が好評であった。 → 《表 2－8－⑤⑥等の作成により対応》

第 4 期では新たに、前回の記録を生徒自身で集計・分析し、実習目標を設定するようにした（表 2－8－③④を活用）。生徒は、その目標を意識しながら作業を進めることができた。また、チャレンジする課題を生徒自身で選択するようにしたため、責任を持って最後まで取り組むようになった。

さらに、操作マニュアル、漢字の読み仮名シート、ファイル整理ヒントシート（表 2－8－①⑤⑥）の活用により、できるだけ生徒自身で課題の解決が図れるような環境を準備した。特にファイル整理課題は、知的障害の生徒等で、具体的な事業所組織のイメージが描けないと課題解決が難しいことから、

事業所組織を知識として理解することも含め、ファイル整理ヒントシート（表２－８－⑥）を参照しながら操作するようにした。これらは、生徒の実態に応じて提供するようにしており、教育機関における「補完手段」の方向性を示すものであろうと考えている。

生徒の中には「自分で何とかしなくてはといけない」と思いこみ、支援者等に質問することもできず、作業遂行が中断する者もいた。どのように「補完手段」を提供し、また、どのタイミングで質問等を促すかは、今後の課題である。

②各課題の障害別取組状況

平成 18 年度の前期及び後期に実施した校内実習における、障害別の到達レベルを、各課題ごとに表 2－9（該当なき Level は省略）に示した。

数値入力課題は、数多くの生徒が取り組み、大半の者が Level6 まで到達していることがわかる。

文書入力課題は、後期で自己選択制導入のため、難易度が高いと判断されたためか希望者が少なかった。

コピー＆ペースト課題は、広範囲の障害で適応している。

検索修正課題は、後期で力を入れた課題でもあり、取り組んだ者は比較的良好な状況であった。

これらのことから、継続的な取り組み等を行っていけば、各障害毎の個性は生じるが、障害のある多くの生徒の職域拡大の可能性を示唆していると考えている。

表 2－9 各課題の障害別取組状況

	到達 レベル	LD等		自閉症		身体障害		知的障害		脳梗塞 後遺症		計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
数値 入力 課題	Level 1					1		1				2
	Level 2					1		1				2
	Level 3							2				2
	Level 4			1					1			2
	Level 5							2	2		1	5
	Level 6	3	2	5	2	2		10	3	1		28
	計	3	2	6	2	4		15	7	1	1	41
文書 入力 課題	到達 レベル	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計
	Level 1	1		2				4		1		8
	Level 2	1				1		1				3
	Level 3	1		1				1				3
	Level 5		2									2
	計	3	2	3		1		6		1		16
コピ ー＆ ペー スト 課題	到達 レベル	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計
	Level 1	1						2	1			4
	Level 2			1				1		1	1	4
	Level 3			2				1				3
	Level 4		2	1	1				1			5
	計	1	2	4	1			4	2	1	1	16
検 索 修 正 課 題	到達 レベル	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計
	Level 1	1			2				2			5
	Level 2								1			1
	Level 5		2									2
	計	1	2		2				3			8

③校内実習（第 4 期）で OA 課題の 5 課題すべてに取り組んだ生徒の事例

(a) 対象者

- ・ 1－H 女性 高等部 3 年（当時）
- ・ 学習障害の疑いがあると言われたことがある（手帳の取得なし）

(b) 本人の状況

- ・ 国語力は小学校中学年程度。地理・歴史・政治・経済の基本的な知識をもっている。
- ・ 話の内容を掴みながら言葉を交わしていくことは難しい。

(c) 支援目標

- ・ マニュアルや補完手段を活用することにより、セルフマネジメントの力を向上させる。